

# 公共図書館のがん情報サービスの課題（続報）

## －アンケート調査・インタビュー調査の結果－

磯部ゆき江<sup>1)</sup>，佐藤正恵<sup>2)</sup>，三輪眞木子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>日本図書館協会，<sup>2)</sup>千葉県済生会習志野病院図書室(JHIP 上級)，<sup>3)</sup>放送大学

### 1. 目的と経緯

本研究の目的は、がんをはじめとする公共図書館の医療健康情報サービスの実態と課題を明らかにすることである。昨年の本研究大会における Web サイト調査(第1報)に続き、本発表では、その後実施したアンケート調査、インタビュー調査の結果を報告する。

### 2. 調査方法

#### 2. 1 アンケート調査

都道府県立図書館（47 館）、政令指定都市立図書館中央館（20 館）に質問紙を郵送し、全ての都道府県立図書館及び政令指定都市立図書館から回答を得た（回答率 100%）。質問内容は、医療健康情報サービスに関する所蔵資料、基本図書、選書、配架、レファレンス、広報・Web サイトの情報提供、研修、他機関との連携、資料収集・提供の課題及び当該サービスに関する意見を含む 11 項目で構成した。

#### 2. 2 インタビュー調査

健康医療情報サービスで実績のある図書館を訪問し、「連携」、「選書」を中心に収集・提供する資料やサービス、利用状況について担当者の聞き取り調査を実施した。調査対象は、①愛知医科大と近隣 4 市図書館（めりーらいん）、②逗子市立図書館と大和市立図書館、③和歌山県立図書館、④堺市立健康福祉プラザ・堺市立図書館、⑤埼玉県立久喜図書館・埼玉県済生会栗橋病院図書室、⑥鳥取県立図書館及び県内の病院・医学・看護図書館である。

### 3 調査結果

調査により以下の点が明らかとなった。

- 1)資料は印刷媒体（図書、雑誌、パンフレット）を中心に提供されており、インターネット情報や電子書籍は少ない。データベース導入は DreamIII が 17 館、医中誌 web が 15 館。
- 2)基本図書は、薬剤系辞書や医学辞典は最新版を所蔵している図書館が過半数で、抗がん剤・がん治療に関する図書も最新版を所蔵している図書館が半数近い。しかし、診療ガイドラインは、最新版 10 館、旧版 39 館、ほとんど所蔵していない図書館が 18 館であった。
- 3)医療健康情報サービスには幅広い主題知識が必要と考えられているものの、資料や情報源の収集・提供には困難も感じており、そのために研修が望まれている。
- 4)主題に特化した選書基準は作成している図書館 3 館のみで、選書は必ずしも基準に基づいて行われているわけではない。収集方針や選書基準は必要との意見は多く、作成するのは容易ではないことを示唆している。
- 5)調査対象の図書館の大部分は他の専門機関と何らかの連携を行っている。連携が有効に機能している事例では関係団体をつなぐ司書が重要な役割を果たしている。